故 名誉員　大河戸宗治博士を想う

大河戸博士は明治 10 年4月5日山口県に生れ，遂に昭和 35 年1月 15 日満 82 歳の高齢を以つて逝去せられた。うたた敬慕の念と寂莫の感に堪えない。

顧みれば約 50 年前，私が今日の国鉄の前身たる鉄道院に就職し，大河戸さんの部下となつて鉄道橋の設計に従事することになつたが，当時大河戸さんは既に欧米への留学を終えて帰朝後，新進の技師として活躍して居られたのである。

大河戸さんは超俗的な方で極めて独創的な優れた技術家であり，又学者であつた。大河戸さんが俗事を忘れて設計や考案に全精神を集中して没頭される姿には，私↗達は深く感銘し又感化を受けたものである。

大河戸さんが国鉄の前身たる逓信省鉄道作業局に入られた頃は，未だ我国鉄道橋の設計や製作は多く米英独に依存して居た時代であつたが，大河戸さんが之れに携われるに及んで自信を以つて指導され，設計の製作も凡べて我国独自の力による様になつた。大河戸さんは鉄道橋技術に関し切磋琢磨し率先して指導に当られ，著しい進歩発展を遂げた。今日国鉄の構造物設計技術は世界に誇るに足るレベルに達して居るが，之れは決して一朝にして成つたのではなく，遠く半世紀以前の大河戸さんの偉大なる努力が其の根源をなして居ると確信する。

博士は鉄構造物に御造詣が深かつたのみならず，鉄筋コンクリートも深く研究を積まれ，当時世間一般が鉄筋コンクリートに未だ不安を持つて居た所謂メーソンリー時代であつたが，博士は確信を以つて先輩諸公を説得して，国鉄土木工事に鉄筋コンクリートを使用せしめ，大いに合理的経済的になつたのも，博士の顕著なる功績の一つであると思う。

大河戸さんは大正8年から 10 年の永きに亘つて，鉄道院東京改良事務所長として東京附近の山手，京浜，東北，中央の各電車線の建設改良に優れた指導者として尽瘁され，今日の東京通勤施設の大本を建設されたのである。大河戸さんの熱意は永遠に都民に感謝され生きることであろう。 其当時大河戸所長の下で 所員等は春風台蕩の雰囲気の下で，皆実によく仕事に励んだもので，博士の人徳の然らしめたものと今更ながら感概を深くする。

昭和6年鉄道省工務局長の要職を最後に 29 年間の永い鉄道生活を終つて退官された。

翌昭和7年迎へられて東京帝国大学教授として昭和 13 年迄後進の育英に専念せられた。そのかたわら昭和7年財団法人 攻玉舎理事に就任され工学校長，工業学校長，工業高専学校長，高等工学校長（現短大）などを歴任され，昭和 25 年以降は同校短期大学教授として土木構造工学を教授し，永い年月の間同校の発展に尽され，青年の育英に尽力された御功績は又誠に尊いものである。

我が土木学会にあつては理事，副会長などを経て昭和 12 年第 25 代会長に就任され斯界のために中心的存在となられた。そして昭和 25 年名誉員に推挙せられた。特に2期に亘つてコンクリート調査委員会委員長として権威ある示方書の制定に努力を傾けられた功績は特筆すべきものであろう。

昭和 31 年 11 月には政府より名誉ある交通文化賞を授賞された事は博士の偉大なる御功績を物語るものである。

今つらつら大河戸さんを偲ぶと誠に資性温厚な方で，部下に嘗つて怒つたことはなかつたと思う。そして 40 代，50代になられてもハニカミ家で時に処女の如く頬を赤く染められる様なことがあつて，如何にも天才的な感じの魅力があつた。御趣味はゴルフ，玉突，将棋等であつた。特に将棋は高段者でアマの中では稀に見る強い存在であつて5年ほど前までは，よく交通協会娯楽室に姿を見せて居られた。

博士の御活躍は永いものであつたが茲三，四年来老衰のため殆んど外出もされずに居られた。国鉄御退職後何時の頃か博士の徳を慕い，宮地鉄工所が同社の顧問に迎へて居たが，之れが博士の他界せられる迄続いて居たことは，利益を求める業界として殊勝なことで，博士の徳の然らしめた処ではあろうが心暖る事である。

終りに博士の夫人を始め遺族の方々の御幸福を念じ，茲に謹んで博士の御冥福を祈る次第である（原文のまま掲載）。

【名誉員　東京急行電鉄ＫＫ技術顧問　　**黒田武定・記**】